

第48回技術士の夕べ（平成27年度1月例会）

「安全文化に関する意見交換」レジュメ（概要版）

日 時：平成28年1月15日（金）18時00分～20時00分

場 所：日本技術士会 荳手第二ビル5階 会議室A, B

講演者：畑孝也 部会員、桑江良明 部会員、雨夜隆之 部会員、渡辺文隆氏（JAEA）

進 行：勝田昌治 副部会長

参加者：30名（会員21名、非会員9名 講師、一次合格者含む）

1. 講演概要

【講演1】「安全、安心、安全文化、…～議論は共通語があればこそ可能」

（講演者：畑 孝也 部会員）

【講演2】「事業者側から見た 原子力安全文化を巡る 規制／事業者の関係」

（講演者：桑江良明 部会員、電源開発株 勤務）

【講演3】「核セキュリティ文化」

（講演者：雨夜隆之 部会員）

【講演4】「組織開発(Organization Development)に関する動向について - 原子力の安全文化、核セキュリティ文化の醸成への活用 -」

（講演者：渡辺文隆氏、日本原子力研究開発機構 勤務）

・畑部会員からは、「安全文化」を議論するにあたり用語の定義の重要性が指摘された。そのうえで、9つのキーワードの定義が提唱されるとともに、畑部会員の考える「安全文化」の範囲が明示された。

雨夜部会員からは、IAEAのモデルにより、「安全文化」と「核セキュリティ文化」の共通・類似性が示された。

桑江部会員からは、「安全文化」を規制対象とすることにより、逆に事業者の自主性が阻害されているのではないかとの懸念が示された。また、その対策として技術士資格を媒介とした対等・自由・継続的な議論の提案があった。

渡辺氏からは、「安全文化」「核セキュリティ文化」の醸成（向上）に有効と考えられる組織開発の考え方・手法（「診断型」と「対話型」の対比、組織の「成功循環モデル」等）について紹介があった。



2. 参加者からの意見

- ・渡辺氏の講演でセルフアセスメントの重要性が指摘されヒントを得た。個人の振り返りが必要。
- ・鉄道関係で安全（文化）関連に従事している。安全の取組みは形骸化が問題と感じておりそれを防ぐため自由度を与えるべきと考える。電力会社の場合、供給圧力バイアスもあり難しいのではないか。

個人の意識だけでも、組織的取組みだけでもうまくいかない。言うべきことが言えて（場合によっては内部告発も含め）改善に繋げていくことが安全文化ではないか。

- ・メーカーの立場から。装置開発は本来コストを気にせず安全優先で行うべき。しかし、電力自由化が叫ばれた 2000 年頃から「安く作れ」という経済的プレッシャーが強くなったような気がする。安くなければ市場から受け入れられない。安全でなければ入れない。「コストは置いておいても安全のために頑張ってる」というお墨付きがあればよいのだが。やらされ感、疲弊を防ぎ、個人の資質を育てる環境整備が必要。

3. 企画提案者（桑江）から（意見交換を終えて）

- ・講演時間が大幅に超過し当初予定していた意見交換の時間がほとんど取れなかったことについて、企画提案者かつ講演者の一人として深くお詫びします。
- ・各々の講演は独立しているが、畑、雨夜講演に基づき言葉の定義・概念を整理したうえで、渡辺講演で紹介された考え方・手法を参考にしつつ、桑江講演で提起された問題に如何に対応するか（→※）、…という関連付けが可能と考えます。
- ・アンケートに記載された意見も参考にして次回のテーマを設定します。

一回のテーマ候補

- ・今回の続き（※）
- ・「国レベルの『安全文化』はどう定義されるか？その場合のリーダーシップ、コミュニケーションとは？」（講師間で議論継続中）、
- ・IAEA カンファレンス（2月開催）の報告

以上